

この本は安政三年（一八五六）八月の、歴史的な大風水害について述べたもの。この絵には次のような説明がある。「高輪牛町は土地窪なるそのうへに、海近ければ高汐の床まで揚るに驚きて、飼置る多くの牛を小屋より出して逃さんと、飼主はいふも、更牛飼等も犂ひききて起せど、牛は諺に暗より引出すとやら、一向に動かねば、困こまじ果しとの咄しなり。既に昨年地震の時、馬を逃して困りしとは表裏の咄しなりと、其心痛を察しやりにき」

（根本順吉）





